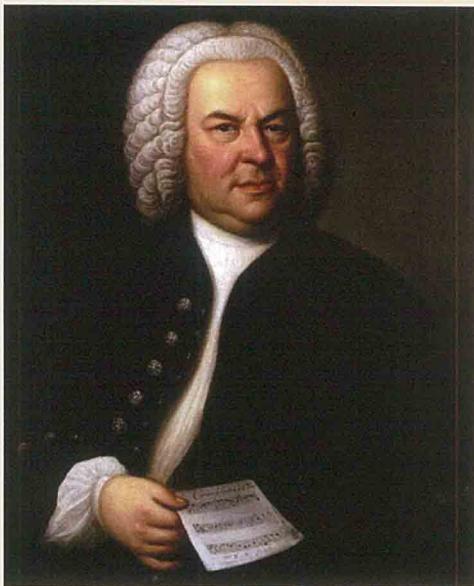


北村智恵 バッハが得意になる講座 「バッハへの道」

全19回

インヴェンションとシンフォニア全曲講座



「鍵盤楽器の最強かつ最高のテキスト」と言われる
J.S.バッハの「インヴェンションとシンフォニア」において
楽しく、そしてバッハの教育的意図を実現するレッスンを目指す
ピアノ指導者のための講座です。

生徒たちが「インヴェンション」に楽しく取り組むための
「準備教育」の具体例から始まり
その後「インヴェンションとシンフォニア」全30曲のそれぞれの特徴と
練習目的や曲順、宿題の与え方など、1講座につき2曲ずつ、丁寧に
実践的な指導法を学びます。

「単なる曲の分析だけではなくレッスンですぐに使える内容だった」
「受講した自分自身がバッハの新たな楽しさを知った！」と
これまで各地で受講した方々から好評をいただいている講座の
新規開講です。

日 程 2017年 5月19日(金) 開講

2018年 12月修了予定 (全19講座)

月1回 第3または第4金曜日

時 間 10:30~12:30

会 場 カワイ梅田 コンサートサロン“ジュエ”

大阪市北区梅田1-1-3 大阪駅前第3ビル1階 TEL 06-6345-8300
大阪駅・梅田駅より徒歩5-10分

募集定員 50名(先着順)

テキスト J.S.Bach インヴェンションとシンフォニア(ヘンレ原典版)

受講料 ■分納 (4講座) 16,000円×4回
(第17回~19回 3講座) 8,000円
■全納の場合 (19講座) 70,000円
(北村智恵編纂 自主教材の楽譜代を含む)



ピアノ指導、楽譜の監修・校訂、作・編曲、CDの楽曲解説やコンサートのプログラムノート、新聞、音楽雑誌への執筆等、長年に及ぶ。相愛大学「ピアノ教授法」「音楽学演習」講師。

全国各地でピアノ講師のための講座・公開レッスンの講師をつとめる一方、学校関係や、教育セミナーの講演も多い。音楽教育図書、ピアノ曲集など著書多数。また、2004年に出版された「ピーターラビットピアノの本」(全音楽譜出版社)は、その指導上の工夫や画期的な内容が専門家の間で高く評価されており、2014年4月、内容をより充実させ新たな装丁でリニューアルされた新訂版「ピーターラビットと学ぶはじめてのピアノ教本」(全3巻)が㈱パナミジカより出版されている。

バッハ「インヴェンションとシンフォニア」全曲連続講座は、全国各地で繰り返し開催されてきたが、深い読解と、自宅生徒のレッスンの実践から生まれたオリジナリティあふれる指導法で好評を得、再受講希望者も多い。音楽雑誌ムジカノーヴァ2012年4月~2015年3月に連載された「バッハへの道」も大好評を博す。

お申込み・お問い合わせ

ムジカ工房 MAIL info@musicakobo.com
TEL 072-689-0727 FAX 072-687-0314
〒569-1031 高槻市松が丘2-7-22
<http://musicakobo.com>
カワイ梅田 TEL 06-6345-8300

主催 ■ムジカ工房

後援 ■ちえの輪俱楽部

協力 ■カワイ梅田

北村智恵 インヴェンションとシンフォニア 全曲講座 受講申込書

申込日 月 日

お名前(ふりがな)

Mail

ご住所

FAX

*本書面に記載された個人情報は、お申込者の承諾なしに他の目的には使用いたしません。

TEL

「インヴェンションとシンフォニア」で何を学ぶのか—— それは、「バッハは自由で楽しい」ということなのです!



ピアノ学習者にとって、ポリフォニーの演奏技術の習得は不可欠なものです。そのポリフォニー学習のもっともアカデミックなものとして、日本では昔から、J.S.バッハの2声インヴェンションや3声シンフォニアがレッスンの定番とされています。ピアノの先生の中でこれらを弾いたことがない、習ったことがないという方は皆無に近いと思いますが、その中の多くの方がたから「バッハは苦手」「インヴェンションは楽しくなかった」「よく解らないまま何となく弾いて通り過ぎたので自分の生徒に教える自信がない」とよく聞きます。原因は明確です。その方がたのほとんどは、「インヴェンション」自体がポリフォニーの導入教材とされてきて、その準備教育を受けてこられなかったか、もしくは「インヴェンション」の目的を果たすレッスンに出会えなかつたからだと思います。

この連続セミナー「バッハへの道」では、「インヴェンションとシンフォニア」に託されたバッハの教育的意図を明確にすること、および、その目的のための、計画的な指導的具体例をお伝えし、また何より「バッハ大好き先生」「バッハ大好き生徒」が一人でも多く生まれるための「本当は楽しいインヴェンション」の道のりを、みなさんと一緒に歩みたいと思います。

バッハ自筆の序文にある“Inventiones”(作曲上のアイデア)と“Cantabile”(歌わせること)という2つのキーワードが、30曲それぞれどのように音楽として実現されているのか検証し、バッハの仕組んだテーマのパズルやフレージングを丁寧に読み解いて、練習の仕方を生徒が自分で考えられるように指導できる力を、この機会にぜひつけていきましょう。こんなに自由でスリリングなことが、楽しくないはずはないのですから。

(北村智恵)

JOHANN
SEBASTIAN
BACH